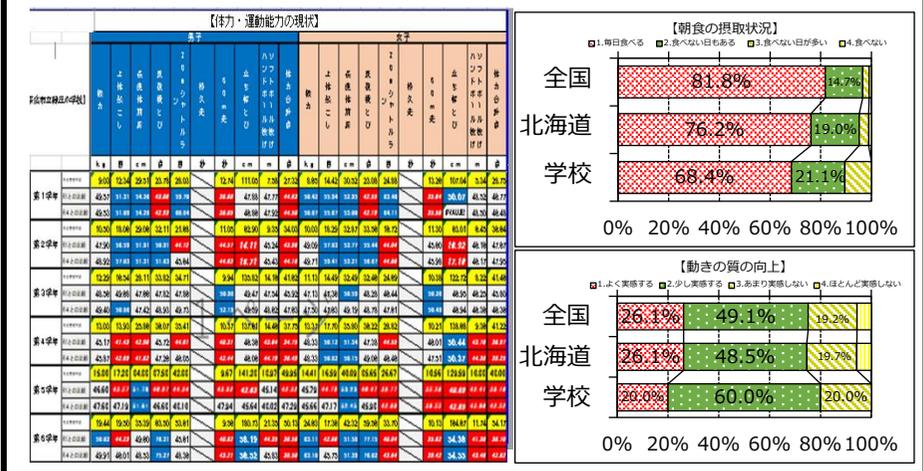


### 1 自校の児童生徒の体力・運動能力等に関わる現状

○ 体力・運動能力や運動に関する意識(内面)、生活習慣、運動習慣等に関わる現状



### 2 自校の児童生徒の体力・運動能力等の現状から分析した課題

○ 体力・運動能力等に関わる課題

- ・全体的な体力・運動能力は平均程度であるが、シャトルラン、50m走、ボール投げの能力が低い。
- ・持久力を必要とする種目に課題がある。
- ・体育の授業を楽しいと感じている子に比べ、質の向上を感じている割合が低い。

○ 生活習慣、運動習慣に関わる課題

- ・朝食の摂取率が低い。
- ・スクリーンタイムの時間が長い子どもの割合が多い。
- ・一週間の運動時間は60分を超える子の割合が全国に比べると多い。

### 3 自校の児童生徒の体力・運動能力等に係る目標

○ 体力・運動能力等に関わる目標

- ・持久力を必要とする運動の機会を設定し、バランスの良い体力・運動能力の向上を図る。
- ・体育授業の中で自分の伸びを実感し、主体的に運動に取り組む子どもを育成する。

○ 生活習慣、運動習慣に関わる目標

- ・自分の生活習慣を主体的に調整するための自己指導能力を育成する。
- ・運動の楽しさを味わい、学校以外においても運動に取り組む子どもを育成する。

### 4 自校の児童生徒の体力・運動能力等に関わる目標達成状況

○ 体力・運動能力等に関わる目標の達成状況に対する評価指標

- 【評価方法】**
- ・学期末の子どもに対するアンケート
  - ・体力テストで低い項目のリトライ

- 【成果指標】**
- ・シャトルラン、50m走、ボール投げで全国平均以上の子どもの割合80%以上
  - ・自分の体力・運動能力の向上を実感している子どもの割合80%以上

**【評価結果】**

- ・評価(2月)

○ 生活習慣、運動習慣に関わる目標の達成状況に対する評価指標

- 【評価方法】**
- ・学期末の子どもに対するアンケート
  - ・学校評価

- 【成果指標】**
- ・運動時間60分以上、平日のスクリーンタイム1時間以内と回答した子どもの割合80%以上
  - ・「早寝・早起き・朝ごはん」が定着してきたと回答した保護者の割合が80%以上

**【評価結果】**

- ・評価(2月)

### 5 自校の児童生徒の体力・運動能力等に応じた具体的な取組【1校1実践】

- 全学年で「汗をかく体育」の実施
  - ・持久力をつけること等を中心に、体育授業の導入時の3分程度を活用して、「なわとびチャレンジ」、「工夫した準備運動」等の運動を継続して行う。
  - ・体育の授業の中で「子どもを動かす活動」を増やす工夫をする。
  - ・休み時間に「なわとびコーナー」を設置して、なわとびをする機会を増やす。
  - ・質の向上について、体力テストのリトライや変容の可視化を図る。
- 生活リズムチェックシートを活用した継続的な生活習慣の改善
  - ・生活リズムチェックシート等を活用し、生活習慣を振り返る機会を増やす。
  - ・保護者と連携・共有しながら、生活習慣の改善を図る。
- どさんこ元気アップチャレンジへの参加呼びかけ

- 【取組指標】**
- 全学年・単年で継続的に実施し、月末に振り返りを行う。
  - 全校で実施し、月末に学級ごと振り返りを行う。
  - 各学期末に確認を行う。

### 6 次年度に向けた具体的な取組の改善・充実

- ・全教職員で、全校での取組の充実を図る。
- ・全学年での複数回実施を目標に、継続した取組の実施を図る。
- ・第五中学校と連携を図り体力向上に努める。